

## 第4学年国語科学習指導案

日 時	平成18年11月2日(木) 授業Ⅱ
場 所	4年2組教室
児 童	男子14名 女子20名 合計32名
指導者	金野 佳代子

- 1 単元名 人物の気持ちの動きを(光村図書 4年下)  
教材名 「ごんぎつね」

- 2 単元について

- (1) 教材について

教材「ごんぎつね」は、いたずら好きでひとりぼっちの小さきつねごんが、兵十に償いをするが、なかなか通じ合えず、死という極限においてようやく心が交流しあえたという哀愁に満ちた悲しい物語である。中学年も後半になると、かなり抽象的な思考ができるようになってくる。愛情とか友情などの言葉を好んだり、物語の読みにおいても、筋を追うだけでなく、人物の行動の奥にある心情や作者の描こうとしたねらいに近づこうとするようになる。悲しさや優しさを主題にしたものでは、特に強い共鳴や共感を受けるようである。したがって、このような子供たちに、小ぎつねのごんと人間である兵十との悲しい心の交流を主題とする本教材は最適であり、容易に物語の中に溶け込めるものと考えられる。

- (2) 児童について

児童は、これまでに「白いぼうし」や「一つの花」で、場面を比べて様子や気持ちを読み取る学習をしてきた。これらの学習を通して、児童は文や言葉に着目しながら、登場人物の様子や気持ちを読み取ろうとする態度が育ってきている。

毎時間視写文をもとに読み取りを行っているため、書くことに抵抗なく取り組むことができる。また、ほとんどの児童は視写文の中で、主述の関係をとらえることができるようになってきている。さらに、視写した文を分けて意味ごとのまとまりを理解する力もついてきている。しかし、学び合いの場面で、自分の考えを発表したり、根拠をもとに発表することにあまり慣れていない。

- (3) 指導にあたって

第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことである。関連する内容として、「ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと」「ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」「エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」「カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと」がある。

そこで本教材では、この目標に少しでも近づくために、毎時間ごとに中心となる部分の視写を取り入れ、叙述を基にごんと兵十の気持ちを読み取っていく。視写後の一人学びも明確な視点を与えて児童の支援としていきたい。また、視写文を読み深める際には、主述、修飾・被修飾の関係にも注意しながら進めていきたい。学び合いでは、自分の考えを発表できるようによい書き込みをしている児童をほめるようにしたい。さらに、教科書のどの言葉からそう考えたのかを言わせるようにさせたい。

読書との関連については、「ごんぎつね」の学習をきっかけにもっと読書に興味をもち、読書の幅も広げてほしい。そこで読書タイムなどを利用し、新美南吉著書を読み聞かせることも行いたい。そして児童が図書室に足を運ぶきっかけとなるよう支援したい。

### 3 単元の目標

- (1) 関心・意欲・態度
  - ・いろいろな読み物に興味をもち、読むことができる。(読カ)
- (2) 読むこと
  - ・叙述をもとに、場面ごとにごんの気持ちの変化を読み取ることができる。(読ウ)
- (3) 書くこと
  - ・書こうとする事を中心を明確にして感想を書くことができる。(書エ)
- (4) 話す・聞く
  - ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら、話し合えることができる。(話・聞ウ)
- (5) 言語事項
  - ・修飾と被修飾との関係など、文の構成について理解することができる。(言ア)

### 4 指導計画 (11時間扱い)

段階	時間	ねらい	学習活動	具体的評価規準
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を読み、これからの学習に関心を持つ。</li> <li>・新出漢字を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を通読し、簡単な感想を持つ。</li> <li>・新出漢字を確認する。</li> <li>・教師の新美南吉の本紹介を聞く。</li> </ul> (参考図書) 『てぶくろを買いに』 『うた時計と狐』	(関)学習に意欲をもち、全文を読んで簡単な感想を書くことができる。 (関)新美南吉の本に興味をもつことができる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を読んで、あらすじをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を通読し、ごんのいる場所に注目しながら、場面分けするなどして、文章全体を大まかに捉える。</li> </ul>	(読)ごんのいる場所に注目しながら、文章全体を大まかに捉えることができる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を読んで、学習の見通しを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を通読し、学習計画を立てる。</li> </ul>	(関)学習計画について意欲的に考えようとしている。
たしかめる	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いたづらをするごんの様子や気持ちを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いたづらをするごんの様子が変わるところを視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	(読)いたづらをするごんの様子を視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取ることができる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十のおっかあの死を知り、後悔するごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十のおっかあの死を知り、後悔するごんの様子が変わるところを視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	(読) 兵十のおっかあの死を知り、後悔するごんの様子を視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取ることができる。
	6 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つぐないをするごんの様子や気持ちを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十に対してつぐないをするごんの様子が変わるところを視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	(読) 兵十に対してつぐないをするごんの様子を視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取ることができる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十と加助の話の聞いて、もどかしさを感じるごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十と加助の話の聞いたときのごんの気持ちが変わるところを視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取る。</li> </ul>	(読) 兵十と加助の話の聞いたときのごんの気持ちが変わるところを視写し、言葉に着目しながらごんの気持ちを読み取ることができる。

	8	・ぐったりと目をつぶったままうなずいたときのごんの気持ちを読み取る。	・ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの様子を視写し、ごんの気持ちを読み取る。	(読) ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの様子を視写し、ごんの気持ちについて読み取ることができる。
まとめる	9	・文章全体を読み返し、まとめの感想を書く。 ・読後の感想を発表しあう。	・文章全体を読み返し、読み取ったことをもとにまとめの感想を書く。 ・感想を発表しあう。	(書)文章全体について、読み取ったことをもとに感想を書くことができる。 (話・聞) 友だちと自分の考えの違いや共通点を考えながら話し合うことができる。
ひろげる	10 11	・発展読書をする。 ・読んだ本について感想を書き、友達と感想を交流し合う。	・新美南吉の本を読む。 ・読んだ本について短い感想を書き、友達と感想を交流し合う。	(書)読んだ本について感想を書くことができる。 (話・聞) 友だちと自分の考えの違いや共通点を考えながら話し合うことができる。

## 5 本時案

### (1) ねらい

- ・ごんの兵十に対する気持ちの変化、償いをする様子や気持ちを読み取ることができる。

### (2) 展開

段階	学習内容・教師の働きかけ	期待する児童の反応	留意点・評価
つかむ 5分	<p>1 前時想起</p> <p>○ごんは、あんないたずらをしなければよかったと思っていますがどんないたずらでしたか。</p> <p>○どうしてうなぎをとらなければよかったと思ったの。</p> <p>2 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ごんは、どんな気持ちでくりやまつたけを持っていったのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うなぎをとってなげた。</li> <li>・兵十のお母さんの死んだから。</li> <li>・自分のせいで死なせたと思ったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんの心の中に、自分のいたずらを後悔している気持ちがあることを想起させる。</li> </ul>

<p>た し か め る</p> <p>37 分</p>	<p>3 課題解決(読み取り)</p> <p>(1) 学習場面の音読 ○ごんがしたことを探しながら聞く。</p> <p>(2) 学習場面の読み進め ・赤い井戸のところで麦をといでいたのは誰ですか。</p> <p>○そんな兵十を見てごんは、どう思いましたか。</p> <p>・ごんは、ひとりぼっちでいる時どんな気持ちだろう。</p> <p>・同じひとりぼっちの兵十を見てどう思ったのかな。</p> <p>・ごんは、兵十がさみしいと思っ てあることをしてあげました。 それは何んでしたか。</p> <p>○そのことについてごんは、どう 思っているの、</p> <p>○兵十も喜びましたか。</p> <p>・次の日、ごんがしたことはなん でしたか。</p> <p>○兵十の独り言を聞いてごんは、 どう思ったのだろうか。</p> <p>・ごんは、くりをどうしましたか。</p> <p>4 視写 ・毎日のように、兵十のところに 通うごんの様子が見える部分 を書く。 ○なぜ、くりをとどけるのかを考 えるために視写をします。</p> <p>・早く書き終わった人は、一人学 びをしてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・順番読み</li> <li>・兵十</li> <li>「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十 か。」</li> <li>・さみしい。</li> <li>・さみしい。</li> <li>・いわしを投げこんだ。</li> <li>・いいことをした。</li> <li>・喜んでいない。</li> <li>・</li> <li>くりをどっさり拾った。</li> <li>・しまった。</li> <li>・申しわけないことをしてしまった。</li> <li>・そっと物置の入り口に置いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんがしたことに着目し て読む。</li> <li>・兵十の様子を表す文や、 「おれと同じ、ひとりぼっ ちの兵十か。」の文などか ら、ごんが、兵十をかわい そうに思う気持ちをとらえ させる。</li> <li>・「まず、一ついいことをし た。」の文を中心に、行為の 善悪を考えられずに満足し ていることをとらえさせ る。</li> <li>・紙板書を出す。(いわしを 投げこんだ。)</li> <li>・「しまった。」「また申しわ けないことをしてしまっ た。」程度におさえる。</li> </ul>
--	---	---	--

	<p>次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のところに持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、まつたけも二、三本、持っていきました。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の学びあいで生かせそうな書き込みをしている児童を把握する。</li> </ul>
	<p>○一人学び（一人学びの手立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み返す。</li> <li>・ごんがしたことに線を引く。</li> <li>・ごんの気持ちを書きこむ。</li> </ul>		
	<p>5 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書した視写文を、ごんの気持ちを考えながら音読する。</li> </ul> <p>○ごんは、何回兵十に物を持って行ってあげましたか。（わけも言わせる。）</p> <p>○次の日も、その次の日も、ごんがしたことは何んですか。</p> <p>○ごんは、どんな気持ちでくり返し持っていったの。</p> <p>○その次の日、持っていったものはなんですか。</p> <p>○松たけも持っていったごんはどんな気持ちだったの。</p> <p>。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回</li> <li>・3回</li> </ul> <p>・くりを拾って、持ってきてやりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気をだしてもらいたい。</li> <li>・なんとかつぐないしなきゃ。</li> </ul> <p>・くりばかりでなくまつたけも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十に喜んでほしい。</li> <li>・友達になりたいなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の日も、その次の日も、その次の日にはで3回になることをしっかり読み取らせる。</li> <li>・つぐないの気持ちがだんだん深くなってきていることを読み取らせる。</li> <li>・とらえられなければ、説明する。</li> </ul>
<p>まとめ 3分</p>	<p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめの音読をする。</li> <li>・ごんの気持ちがわかるように音読する。</li> </ul> <p>（黒板の視写文）</p> <p>9 次の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ごんが、兵十の後をついて行く場面の学習をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉読み</li> </ul>	<p>（評）ごんに対するつぐないの気持ちと強い親近感が現れるように音読できたか。</p>

(3) 具体的評価規準と支援の手立て

(ノート・学び合いでの発言)

	A	B	支援の手立て
・ごんの兵十に対するつぐないの気持ちを読み取ることができる。	ごんがしたこと <small>に</small> 線を引き、気持ちを書き込んだり発表したりすることができる。	ごんがしたこと <small>に</small> 線を引くことができる。つぐないの気持ちを考えることができる。	課題解決のための文章を見本を見ながら視写するよう支援する。

6 板書計画

<p>一人学びの手引き</p> <p>① 書いた文を目で読み返す。</p> <p>② ごんのしたことに線を引く。</p> <p>③ 気持ちを書く。</p>	<p>つぐないたい・友達になりたい</p>	<p>持っていました。</p> <p>くりばかりでなく、まつたけも二、三本、</p> <p>ていつてやりました。その次の日には、</p> <p>くりを拾っては兵十のところに持つ</p> <p>次の日も、その次の日も、ごんは、</p>	<p>いわしを投げこんだ。</p> <p>「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」</p> <p>さびしそう かわいそう</p>	<p>三</p> <p>ごんは、どんな気持ちでくりやまつたけを持っていたのだろう。</p>
---	-----------------------	--	---	---